

受理

7.2.17

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名 事業所名	社会福祉法人 健光園	代表者 管理者	古石 隆光 山本 佳輝	法人・事業所の特徴	「生涯地域居住」を法人理念として、人と人がつながり、生涯その地域で住み続ける事が出来る社会を創る目的を掲げている。健光園あらしやま小規模多機能ホームは、京都市で初めての特養併設型の小規模事業所です。「あなたしさと共に」という理念を掲げ、地域性や大規模事業所の特色をいかしたサービスや地域交流を実施したい。
-------------	---------------	------------	----------------	-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	3人	1人	1人	1人	1人	13人	0人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	対面での会議を継続し、伝わりやすい文言を使い、伝え方の工夫を凝らして、地域の方々に取り組みを知って頂けるようにする。	運営推進会議では可能な限り専門用語は使用せず、取り組みや苦情など、良くも悪くもありのままを伝えるようにしている。	取り組みや実践についてはわかりやすく、具体的な目標を掲げており、参考になった。	次年度も同様の実践をするとともに、ご利用者の自己実現に向けた取り組みの実践をし、地域の関係者とも共有していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方々やボランティアさんに入館頂ける機会を増やして、事業所を実際に見て頂ける機会を作る企画を実施する。	コロナ対応が緩和し、予防体操や移動売店、催し物等を通じて、ボランティアさんの入館や、運営推進委員に事業所見学を実施。	先々は以前行っていたカフェを営業して欲しい。地域住民が介護状態となった時の窓口になって欲しい。	引き続き、地域ボランティアや外部者の受け入れを勧めていく。
C. 事業所と地域のかかわり	小規模多機能というサービスを地域の方々により知って頂くためにも、「サービスを発信できる機会」「知ってもらえる機会」を作る。	運営推進会議や民生委員の会合を通じて、小規模多機能の事業内容や、地域連携の目的を共有し、一定の理解を得た。	民生委員からは内容が錯綜し難しい事業であるが、利用者に安心を感じやすいサービスであると理解した。	次年ではより広域的に小規模多機能を知ってもらう機会を作っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域ケア会議や運営推進会議で地域行事の情報収集し、ご利用者、ご家族に発信をしていく。	地域ケア会議や学区の秋祭りや防災訓練に参加し、職員・ご利用者共に地域の関係者と関わることができた。	秋祭りの手伝ってもらったことで助かった。次年度も関わって欲しい。	これまででは管理者、ケアマネが中心に地域の関係者と関わっていたが、次年度は職員も地域行事と関わる機会を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を起点として、地域と事業所が協同し、地域課題解決に向けた議論や取組が出来るような体制を作る。	地域の会合に参加する事で、一般の方々の介護に対する認識、不安を開き取ることができた。	今年度は小規模多機能サービスの説明を受けたが、介護教室などもして欲しい。	運営推進会議を通じて、自治会長、民生委員から介護についてどのような不安があり、知識を求めているかを吸い上げる。
F. 事業所の防災・災害対策	地域と施設が合同の防災訓練を開催し、福祉避難所としての機能やフローチャートを整備し発信する。	年2回の防災訓練は実施しているが、地域関係者と合同では行えておらず、福祉避難所としての役割についても発信できていない。	災害発生時は地域と事業所側と共同で支え合えるように課題を共有し、先々はマニュアル化できたら良い。	地域の防災訓練には引き続き参加し、施設の防災訓練においても地域の関係者と行えるように便宜を図る。